

備後教区報

第151号

CONTENTS

- ◇「過去帳研修会」の報告
- ◇備後学僧逸伝⑫甲斐和里子
- ◇特集「本堂の音響設備」
- ◇視点「歎異抄の真意と原型」
比婆組 妙延寺 尾野義宗
- ◇微妙の華
沼隈西組 常泉寺
- ◇NEWS & 活動情報
- ◇予報・インフォメーション



御同朋の社会をめざす運動（実践運動） 推進僧侶研修会より報告

「過去帳問題、又はこれに類する帳簿の開示問題」

NHKテレビの「鶴瓶の『家族に乾杯』」（昨年5月7日放送）において、当該寺院保存の明治年間の『門徒明細簿』と『門徒戸数控』が開示されるという内容の番組が放送された。

この件をめぐる当該住職は「過去帳閲覧禁止」措置については知っていたが、「過去帳に類する帳簿」もその対象であることは理解していなかったという問題が浮上した。そこで、備後教区では、独自に研修テキストを作成し、講師陣を組織して「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動） 推進僧侶研修会として逸早く全組で開催し取り組んだ。年度内には全組で終了する予定。すでに各組から報告書が挙げられており、組長および講師陣からの報告をもとに研修会で浮上した「現状」と「課題と今後」の方向性でまとめてみた。（文責・教区報編集委員）

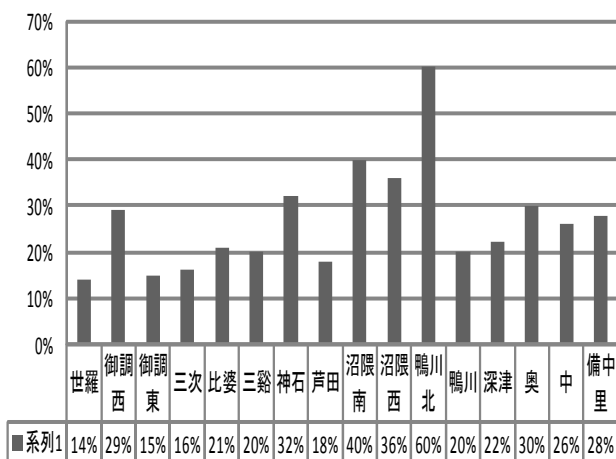
f 実践運動 僧侶研修会 feature articles

▼推進僧侶研修会の開催一覧表

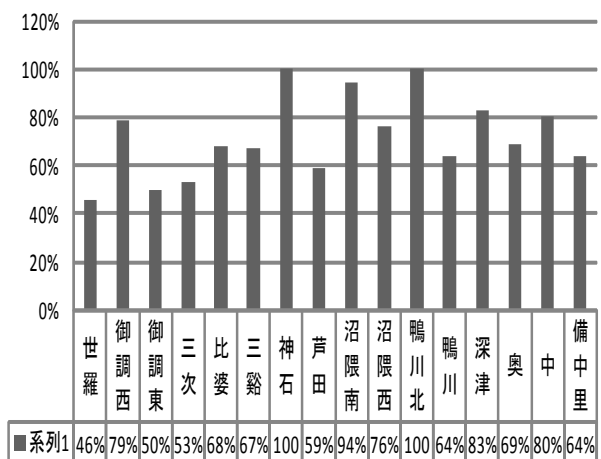
組	期 日	会 所	講 師
01 備中里	2月25日	(備中里組) 浄心寺	佐々木至成 季平芳照
02 中	9月24日	芳井町公民館	佐藤秀圓 苺屋光影
03 奥	1月25日	(奥組) 増福寺	高橋了融 季平芳照
04 深津	12月18日	(深津組) 法真寺	佐々木至成 松林英水
05 鴨川	12月3日	(鴨川組) 靈巖寺	佐藤秀圓 田坂英尊
06 鴨川北	9月27日	(鴨川北組) 真光寺	毛利慶典 季平芳照
07 沼隈西	9月17日	(沼隈西組) 浄泉坊	小武正教 毛利慶典
08 沼隈南	1月27日	(沼隈南組) 寶光寺	高橋了融 田坂英尊
09 芦田	11月25日	(芦田組) 明浄寺	高橋了融 苺屋光影
10 神石	1月20日	(神石組) 光福寺	佐藤秀圓 苺屋光影
11 三谿	7月26日	(三谿組) 明覺寺	坂原英見
12 比婆	12月25日	(比婆組) 西楽寺	坂原英見 毛利慶典
13 三次	8月31日	三次まちづくりセンター	栗原尚道 毛利慶典
14 御調東	3月24日	グリーンヒルホテル尾道	小武正教 苺屋光影
15 御調西	9月28日	(御調西組) 浄念寺	佐藤秀圓 季平芳照
16 世羅	10月3日	(世羅組) 真行寺	栗原尚道 佐々木至成

(敬称略)

組内僧侶数に対する出席僧侶数の比率



組内寺院数に対する出席寺院の比率



教区の原状

日常の学びの大切と同時に、同じ事例があった場合、同じ過ちを犯しそうだ、という反省点も多く寄せられていた。過去帳(並びにそれに準ずる帳簿)に含まれる内容がどれほど貴重なものかという認識が住職、寺族に不足している、現状も出された。

また、「過去帳に類する帳簿」にはどのようなものが含まれるのか、多くの意見が出された。

「年回帳」や「寄付札」、さらに配布物に関わる門徒の住所録の扱い、パソコンによる寺院管理ソフトのセキュリティなどに代表される寺院特有の個人情報取り扱いをめぐる事例なども出されたが、特別な管理対応に至っていない現状も報告されている。

そして、これまで寺院に対してどのような「問い合わせ」があったのかも報告されている。一例を挙



げると、身元調査に関わる「ルーツ作り」や「家系図作り」に関するもの、「知人」と名乗り、お墓の調査依頼があったことなどが出され、身元調査が巧妙になっている、との報告もあった。

講師陣からの報告には、テキストにある「差別があるか見抜く眼」に関わって実際に寺院にあった問い合わせの事例が出され、悪し、不適の判断に困った体験の報告もなされたようだ。

さらに先代住職の時代に結婚にまつわる問い合わせがあったが、「身元調査お断りステッカー」を見せて理解してもらったり、日ごろから身元調査と差別の実態を学び、問い合わせに対しては即答しないことなどの身元調査に対応して工夫をしているという事例も報告されている。

「身元調査」や「個人情報」の

取り扱いなどの言及

課題と今後

寺院活動上での個人情報の取り扱いは？

研修に参加できなかった僧侶への啓蒙をどのようにするか。

また、今後の研修と取り組みのあり方が課題として浮上している。今回の研修会は、教区全体で必修として取り組んだが、同朋精神を教区全体で共有、継承していくためにも、差別の現実に学ぶ研修会を教区全体で企画し、実践していくよう推進を願うとか、僧侶(住職)寺族の個人情報に対する意識をしっかりと持ちたい、など前向きな意見が多く出されたようだ。さらに、今回の研修会が講義形式だったので、話し合い形式の方が学びが深まるようだ、という意見も出され研修の持ち方にも検討の必要性がありそうだ。

また、信心と社会を分離してしまっている現実を僧侶だけでなく門信徒を含めた実践運動を実施して差別、被差別からの解放をめざ

すべきだという意見もあった。

寺院活動上での「ご縁づくり」の立場と個人情報保護の立場をどう両立させるのか、といった疑問も投げかけられた。

さらに、「法定後見人」よりお問い合わせの対応など、行政面からの学びの必要性も出された。

門徒からお尋ね、また門徒以外からのお尋ねをどのように確認して、開かれたお寺として対応していくのか、検討の必要性が出され、同時に教区や本山としてのガイドラインを明確化していく必要性が提案されたようだ。

このほか、悪質な身元調査への対応や差別を許さない体制づくりといったものに言及していたようだ。

差別の現状に研修を

備後学僧逸伝

其の12

鴨川組 勝願寺 甲斐和里子



Close-Up-Bingo

明治の教育界は激動の時代であった。米国でキリスト教の洗礼を受け宣教師でもあった新島襄は仏教各宗派の本山が並ぶ京都において同志社女学校・英学校を設立。キリスト教主義を中心として女子教育の重要性を説き、政財界からも多くの賛同者や協力者があらわれ各地で反響をよんだ。そのとき

足利義山の娘・甲斐和里子は京都に仏教主義の女学校が一つもないことは申し訳ないと考え、顕道女学校、文中園(京都女子大学の前身)を創設した。篤信の念仏者であり、努力と忍耐とユーモアにあふれた人生を歩まれた女史の生涯を振り返って紹介してみたい(敬称略)

(文責) 教区報専門委

仏教主義にもとづく女子教育を實踐し、「京都女子大学」を創設した。

【和里子と京都女子学園の略歴】

慶応4年(1868)6月3日、足利義山勸学の五女として勝願寺に生まれる。本名・和里。後に結婚し甲斐姓となる。父母より兄弟同様に男女同等の慈育、徳風を享けて育つ。

明治19年(1886)、父の世話をかねて広島の開成舎に入學し、23年(1890)からは京都のオリエントホールで学んだ。

26年(1893)、同志社女学校専科に入學。

30年(1897)から神戸の親和女学校、滋賀の天津高等女学校の教員を経て、32年(1899)に松田甚左衛門(篤信の実業家で顕道書院経営)の協力をえて、「顕道女学院」を創立。だが、同じ頃に宗教教育禁止する文部省訓令が出され、その影響もあって間もなく廃校にするという話になった。

「それでは生徒が可哀相だ」と夫妻で引き受けて、翌年(1900)に私塾「文中園(文中女学校)」を開設。

文中は漢学者であり南宋画家の夫・甲斐虎山が名付けたもので「真の文(外見や飾り)は腹の中にある」の意味。浄土真宗の教えを腹中に、人間の驕りを捨て、互いの命と心を大切に人間教育を理想とした。

校長は虎山が務め、本願寺から月

額5円の賛助を受けるも学校経営は楽ではなく、和里子は近所の男子学生の洗濯を引き受けたり、夜々編物の内職をし、夫は白扇に絵を描いて売り血路を辿って経営した。

夫妻の理念に共感した先生は殆んど無報酬で教壇に立ったといひ、円明院(九條武子生母)が陰ながら援助され、窮地を脱する事もあった。

43年(1910)、堀川にあった京都高等女学校や裁縫女学校と合併話がでて、この校長が「併合の条件はないが校名さえ残してくれたら一切を譲る」という話であったため、文中女学校を統合し「京都高等女学校」と改名。

44年(1911)には学校経営権を仏婦連合本部に委譲し、大谷籌子や九條武子を支えながら教育に携わった。

大正2年(1913)、東山阿弥陀ヶ峰(鳥辺野)の麓に移転。4年(1915)、朝倉晁瑞校長と共に布哇・米國へ教育事情視察に出る。之は仏教女子大学創設という目的があつての事だったが、当時の事情では時期尚早と断念。

6年(1917)には京都幼稚園を開園し、8年(1919)に待望の礼拝講堂も出来た。

9年(1920)に「京都女子専門学校」を新設し、高等女学校、裁縫女学校と

あわせて「東山学園」とも呼ばれた。各校は連携し、高い教養の教授だけでなく仏教主義に基づく心の教育が次第に世間に認められていった。

また大谷尊由が学校維持財団総裁に就任され、和里子もいよいよ女専の新学科等に向けて連日多忙。

13年(1920)、貞明皇后(大正天皇夫人・籌子の妹)が学園行啓され、和里子はその前で台覧授業を行う。皇后より「心の学園と呼ぶにふさわしい」とお褒めの言葉を賜った和里子は、この日の名誉と感激を胸に、心ひそかに引退の決意を固め、間もなく退職。

別れを惜しむ人々で講堂は満ち溢れ、引き際の潔さは長く語り草となった。その後は虎山と共に京都や別府に滞在して悠々自適に過ごす、常に法味あふれ、『草かご』の著述をはじめ、瑞義・浄円たちの真宗学研究所、自照舎、角坊、生野島などの活動にも積極的に関わった。

35年(1960)、京都女子学園創立50周年記念式典には93才の高齢にて列席。既に一万に及ぶ女子生徒が東山山麓に溢れるほどに成長発展した学園を見届け、37年11月27日、95歳を一期として往生の素懷を遂げた。

【大谷籌子と九條武子】

和里子以外にも学園の創設期を支えた女性に大谷籌子と九條武子の二人の名を外すことはできない。

明治37年⁽¹⁹⁰⁴⁾におこった日露戦争の際、新宗主となった大谷光瑞(鏡如)は一山をあげた非常時体制に移り

「出征軍後援臨時部」を組織。宗派で恤兵資金の募集、傷病兵の慰問、従軍布教使の戦地派遣など進められた。その一方で光瑞夫人・籌子

に「そなたは全国を遊説して婦人団体を結成し、報国のまことを尽くせ」と号令、御裏方自ら全国津々浦々を巡回し仏教婦人会の奮起を促した。

又、自らの妹(後の九條武子)に「そ

ちは私の秘書をかねて仏教婦人会の全国的連絡にあたるため、仏教婦人会の本部長をやれ」と命じられ、当時18才の彼女も任務に挺身した。

こうして2年を経て戦勝の講和が結ばれた際、本山は優渥な勅語を賜った。その後も39年⁽¹⁹⁰⁶⁾7月から御裏方を伴って北海道・樺太を巡化

戦後の教線拡大の必要性を痛感され、9月には清国視察に出発。この

とき学校経営に苦労中の和里子が、光瑞夫妻の旅に伴う形で三ヶ月間も

随行している(随行長・大谷尊由)。

これは同年春に足利瑞義が林嶺信(文中園教授で和里子の同僚)を連れて布哇・米国に渡っているのと同様、光瑞が学校発展のために見聞を

広めさせ、御裏方と学園の縁を取り持たせる狙いもあったのであろう。

やがて学校経営が仏教婦人会に移譲され、欧州の教育事情を視察して女子高等教育の必要性を痛感された籌子は精力的に活動を始めるが、間もなく病で急逝。

その遺志を継いだ武子を中心に

仏婦連合は45年⁽¹⁹¹²⁾に「女子大学設立趣意書」を発表。キリスト教が東都に日本女子大学、西都に同志社を

設立される状況下で、武子は仏婦総裁代理として宗門立女子大学の設立協力を呼びかけ、それに応えて各地から設立資金が寄せられた。

大正9年に移築された「錦華殿」は元々は光瑞・籌子夫妻の婚儀に伴って本願寺百華苑に建てられたものだが、籌子・武子が女子大学

設立構想を膨らませ動かされた「京都女子学園建学の精神」と縁が深い象徴的建物として知られている。

籌子(上)と武子(下)の短冊(勝願寺蔵)



▲大正10年頃の京都女子学園。右は錦華殿
大谷家や本願寺の支援で
学園は急成長していく

岩もあり 木の根もあれど さらさらと
たださらさらと 水の流るる

文中園経営は並みならぬ困難の連続で、この歌はその時の苦勞を偲んで和里子が詠われた歌という。

英語塾には多くの仏教者も集まった。

やがて22年⁽¹⁸⁸⁹⁾に来日したオルコットは日本仏教各宗派の管長が一堂に会する「管長会議」を日本史上初めて実現し、全国各地で破邪顕正の演説を行い、彼の赴くところ輸入されたばかりの仏旗と日の丸が無数に翻ったとも言われている。

このとき和里子周辺の人々・高楠

順次郎らも仏教復興に活躍しており『反省会』の全国各地の会員はオル

cottの全国行脚の受け皿となって

応援し『反省会雑誌』(当時の編集長は兄・日野義淵で編集作業は錦華殿で行われたという)も大いに之を助

けて紹介し、日本キリスト教徒達も『国民の友』誌上にオルコット中傷記事を投稿し始める程であった。

ともあれ、このように当時の仏教復興運動はキリスト教対抗と国粋主義が一緒になって、ある意味異様なほどの盛り上がりを見せている。

但し和里子は単なる排耶論者ではなく、むしろ同志社の先生に仏教の慈悲に通じる姿を感じた人でもあった事に注意しておきたい。

【当時の排耶論と仏教復興運動】

ところで当時、キリスト教や西洋崇拜主義の増加、廃仏毀釈の影響も相まって、衰退・押されぎみであった仏教はやがて反撃に転じた。

真宗関係でも井上円了(大谷派)が哲学館(現・東洋大学)を興して、キリスト教を哲学や進化論の立場で

批判した書を出版した事を契機に、各地で排耶論(耶穌基督の排除論)者を生み出し、彼らは破邪顕正を謳って仏教復興運動を呼びかけた。

和里子が通うオリエンタルホールも同志社英学校に対抗して18年⁽¹⁸⁸⁵⁾に出来た英語塾で、その設立者の平井

金三は熱心な排耶論者でもあった。

平井はオルコット(白い仏教徒と呼ばれ仏旗を考案した)を招いて、日本仏教の復興を図った一人で彼の

和里子 甲斐虎山 妻 甲斐 述 画 (著 題字) 『草かごその2』



【キリスト教の学校で】

同志社入学について、当時の状況を『落葉かご』から紹介する。

私（和里子）が同志社女学校に入ったとき校長松浦先生に面会し、「私は僧侶の子で仏教信者ゆえクリスチャンにはなりませんですが、それでもよければ入学させて下さい」と願うたら、奥へ入って1時間ほどして帰ってきて「こちらは構わぬが、あなたが居ずらくはなかるるか」と申された。いよいよ来週入学と定め其の準備をして居るところに「お父つあんはお家か」とタダならぬ様子で前田慧雲博士がおこしになった。隣室でお茶掬えをしていたら「お和里さん」という声が聞こえてくる。話題はどうやら私の事らしい。近寄って聞けば「嶋地（黙雷）の子息雷夢」というのが受洗して問題を起こしているのに、又、足利の娘がさうなつては困る。忠告せよと言われて来た。

積尊と阿難のごとく 長年 義山の世話をされ、その言行や遺徳を語られた

感受性を多分に持った女の子は尚更ゆえ断然お許しにならぬほうがよい。「へエー黙雷さんの新発意が耶穌になりましたかいナ、そりや黙雷さんも辛かるう。然しそりやあ仏教というものが本当に聞こえて居らぬからじや、之を機会にトツクリと聞かせてやられたら血筋も血筋なり。また、高等学校へ入れる程の智慧ある子じやから、やがて夢がさめて本当の仏教徒になりますすわいな」と言うて、父は御念仏を称え始めた。帰られた後に「前田さんは親切な人じゃ」と言うたのみで他には何一言も言わず終いであつた。私も「隣室で聞きましたか」とも何とも言わず終いであつた。遂に予定通り入学して以来、デビス牧師は日本語で熱心に教誨して下さるし、多くの先生方も分け隔てなく親切に指導して下さい、殊に米国の一宣教師さんは「此のグッドガールが（あまりグッドガールでもなかつたが）信者にならぬ筈はない」と言うて機会を見つけては勧めて下さる。その度毎に「私がつと英語が上手なら仏教の尊さをアベコベに聞かしてあげるのになア」と思い思いました。とどのつまり「私の父が仏教信者ゆ

え」と簡潔に答えたのが私の粗相であつた。「そんならお父さんから先ずクリスチャンにしてあげる」と言うて通訳同伴でやつて来て懇々と説教せられる。父は小じんまりと畏まつて「へエー、さうでござりますすかいナ」を繰り返すのみである。私はまた双方に対し、「相すまぬことをした」と心でお詫びするのみである。後で父も「熱心なものじゃなア」と感心するほどであるし、又一般信者達の日常生活の美点を見聞するにつけても、なほ又「始めはただ勉学の為のみ入学したのであるが、いつとなく信者になって洗礼をうけた。」と学友達から聞かされるにつけても、「私も仏教が聞こえていて下さらなかつたら、もうクリスチャンになつているかも知れん」と思われるほどであつた。そうした月日の間にも折々思ひだされるのは、彼の雷夢さんの事であつたが十数年の後、島地大等さんから「大学卒業頃はもう立派な仏教信者で人も羨む信仰ぶりであつた」と聞かされて、父義山の予言を思い出しつつ嬉しさにたえなかつた。

※但し雷夢師の洗礼時期は和里子の話と時期相違も見受けられる。注意が必要



【念仏に生かされて】

和里子夫妻は大谷光瑞の臨終を看取られた大分県鉄輪「遷化之地」題字は虎山による

そもそも若い頃から病気がちで「養子に来るでなかつた」と悔いる事もあつた義山が60才すぎで安芸や京都の教校に勤めた際「生徒と同じ食べ物で堅いの困る」と漏らした事を聞き、和里子は父の飯炊きや世話をかねて同行した。

結果、和里子は長い間を義山の膝下で過ごしており、父に伴つて各地での会読、法座などにも多く出て聴聞した。それらを理由に、「あなたの信仰ぶりを解りやすう書いて送つてくれ。と、八円の切手を入れた手紙が折々私に来るようになった。父には始終こういう手紙が来た。父はただちに返事していた。晩年には私や姪が代筆した」（中略）しかし「父とは甚だ以て異なつたる私風情が、此の一大事を軽々しくお答えするのは恐ろしうてならぬので」「義山法語」の文を書き写して返事していたそうだ。「草かご」等の著述には、様々な相談に対して

義山の逸話や交流のあった仏教者の話、自身の味わいなどを折に触れて紹介している。その一部を記したい。

「周囲の人に迷惑もかからず、御法義にも傷がつかぬことなら、私は自殺したい。」身の上相談をした後で大抵の人が言い添えられた言葉である。

この世を無事なもの、平穏なものとかねて思うておるから、たまたま苦しいことに出会うと、自分だけかと思ひ僻んで、そんなスネ言葉を吐かれるのであるが、苦しい事や悲しい事は誰にでもある。珍しいことは一つもない。耐え難い苦しみ、忍び難い悲しみの一つづつが人間学校の進級試験である。

あるいは「仏教に育てられている私達は絶望の淵に到達せぬうちクルリと身をかわし、立直り這い上がる方法も知っている筈でございます。」と激励をし、「あなたが一番よいとお

思ひになる仕事に一日も早く着手するのがよい。と、傷心の相談者に対して、信念と慈悲をもって丁寧

に答える和里子であるが、彼女自身も必ずしも家庭円満ではなかった。夫妻には子ができなかつたので、姉の子と養子縁組していたが、画家創作活動のため大分に別居生活中の虎山に子が生まれ、その継子を育てるなどの苦渋もあった。

和里子は自分に厳しく、いつも前向きに明朗な人格を心がけていた。だからユーモアで読者の笑いを誘うことはあつても、いわゆる泣き言を綴つた文面は少ない。

「それでも81になるまでは随分辛い目に会つた事もございます。其節詠んだ拙い歌がございます。

泣きながら御戸を開けば御仏はただうち笑みてわれを見そなはず

「オオ、エライことが出来たのう、可哀相に辛かるうが、わしが始終

いう通り娑婆(堪忍土)じゃからのう」と仰られるように感ぜられ、

ヂツと念仏しているうちに悪寒を覚える程の苦しさも朝日に照らされる氷のように少しづつ溶けていき、いつとなく心もなごやかに

なり、今更ながらお慈悲が有難い

御仏の御厨子のうちぞ人しれぬわが悲しさの捨てどころなる

(耐えられぬ時は御戸をひらき、告げ口がわりに念仏しています)

和里子は胎児の頃から念仏の中で育ち、生涯の艱難辛苦のたびに

念仏で蘇生し、活力を得て、念仏に生かされてきた。右の二首も和里

子が念仏に救われた日の名歌として詠みつけられることであろう。

【和里子夫妻の晩年】

晩年は虎山の米寿が飛雲閣で祝われたり、夫婦あわせ京都市最高年齢で市長から表彰されたりした。

虎山は最後の療養生活で「ああ、

わしは和上(義山)のおかげで何の修業もせず、このまま往生させて

いただくのである」と語り、和里子も「私も父の側に永くおいていただ

たことをいつも有難いと思うておりますが、私のような浅間しいものが

何ひとつ修業もせず親里へかえるように御浄土という親里に帰らせて

いただけるという此の御教えは、父が発明したのではございませぬぞ」と

泣き泣き答えると、「その御教義を安く解きほぐして、わしを一遍で御

浄土人にしてしまわれたのは和上さんじゃ、友人から誘われて初めて和

上に面会した時マア学者気分は捨ててもうて、イロハも知らぬ愚夫愚

婦に成りさがつてしまいなさいや、そうすると夜があけて来ますぞ、と

柔和なあの一喝がわしを今日あらしめたのである」と、義山を偲びつつ

念仏せられる日暮らしてあつた。昭和36年(1961)9月25日、虎山は筆を

とり、「今夜位往生。往くと思う。驚勿」と紙に書いて渡された。

受け取つた和里子はその墨書の

隣に「今夜も知れぬのは誰もです。二人とも注意に注意して百才までは此の世で念仏いたしませう」と

書き添えられた。虎山はその同日お念仏を喜びながら往生された。

和里子は日頃「親鸞さまも、父も母も兄弟も、其外の善い方々も皆

らつしやる(中略)お浄土の皆さんにお会いするには、私の一番嫌いな

死という関所があるのに、それは少しも問題にしておらぬ。又、「死は

極楽の誕生日」とも語られていた。

虎山示寂の翌年、臨終3日前に静かに眠つていた和里子が突然ひとり

り言を言つた。平生の時のように力をこめて「万歳万歳。南無阿弥陀仏」

「日本流儀では、かような時は猪口に一杯酒を飲むのですが、いかに

でしょうか」「それなら、水で祝いますしょう」これが和里子の今生に

おける最後の言葉であつたという。

往く先をおのが心に問わずして

先ずみ仏にたずねまつれよ

義山

み仏のみ名を称ふるわが声は

わが声ながら尊かりけり
み仏をよぶわがこゑはみ仏の
われを呼びますみ声なりけり

和里子

(主な参考書籍) 『甲斐和里子の生涯』、『一枝群荃』、『義山法語』、『草かご』、『落葉籠』、『京都女子学園八十年史』など

ルポ

「お寺の音響設備について」

寺院への納入経験も豊富な音響のプロフェッショナルに聞く



北辰映電の松浦氏（右） 加藤氏（左）

「音響」という言葉を聞いて、

皆様は何を想像されますか？

辞書には、「音とその響き。音。」と書いてあります。

寺院では本堂・庫裏・会館において、各種法要、研修会等が勤まります。

昨今ではその際、マイクを用いる、またオーディオを使って音楽を流すことがある意味では当たり前の時代となりました。寺院を開かれた空間にしていくために音響設備の充実をはかり、法話の聞きやすい、聴聞ししやすい環境を整えたい、との思いをお持ちの方は大勢おられます。ところが実際は専門知識に乏しく、どのような設備が必要なのか、設置にはどれくらいの費用がかかるのか、スピーカーの位置はどこが：等々、様々な声が聞こえてきます。このたび備後教区、安芸教区の多くの寺院への音響設備を手掛けておられる北辰映電株式会社の松浦さん・加藤さんに「寺院における音響設備」についてお話を伺いました。

（文責・教区報専門委員）

はじめに

そのお寺に適した音響設備とは？

それぞれの寺院には環境や構造の違いがあります。本堂の規模、鉄筋や木造の違い、更には天井の高さの違いなどによっても音の響き・伝わり方は違いますし、スピーカーの位置や向きによっても変わってきます。境内への音響も使っていくにつれて音が遅れて伝わっていくなど、問題が起きます。

最近では専門の機材を用いて音響測定・調整を行うことができるようになりました。

それによってハウリング（※1）を起す原因、聞き取りにくい場所などの問題点が分かるようになります。

一つ一つ問題点を解消することによって、その寺院に適した音響設備を考え、設置することが出来るようになります。



▲マイク差込み口の例

※1（ハウリング）
スピーカーから出た音がまたマイクに入ってしまうことで「キーン」という高音や「ブーン」という低音など耳障りで不快な音が発生してしまう現象。

北辰映電 広島本社
HOKUSHIN:ESSENCE (ショールーム)
〒730-0014 広島市中区上幟町6番4号
電話 (082) 228-2783 (代)
北辰映電 福山営業所
〒721-0965 福山市王子町1丁目7番21号
電話 (084) 931-0850

音響調整など、お気軽にお問い合わせ下さい

です。

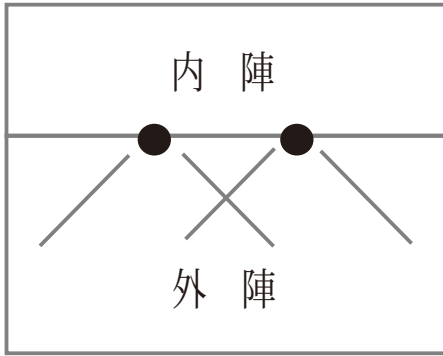
スピーカーの位置

本堂内の荘厳を保つためには、スピーカーの位置が重要です。

音響の伝わり方からいえば、一番いい設置場所は本堂の前方です。前方にスピーカーを置くことにより、前方から後方にむいて理想的な音の流れができます。

しかし、あまり目立つ場所は避けたいなどの理由から、外陣の横や後方に設置されている寺院が多いのではないのでしょうか。

現在ではスピーカーの質の向上・軽量に伴いサイズが大幅に小型化され、欄間の裏や目立たない形で本堂の前方に設置することが可能になっています。



理想的とされるスピーカの位置
(高さ・角度など機器により異なります)



▲欄間下に設置された施工の一例



▲小型で高性能なスピーカー（携帯電話と比較）

ハウリングや聞こえにくさ

音響設備と聞くと、既存の物をすべて買い替えて、費用もより膨らむのではないかと想像してしまいがちですが、今回、専門家の方からお話を聞いてみると、新しい音響機材を丸ごと買い替えるのではなく、古い音響機材を生かして音響測定・調整を行うことを大切にしておられるそうです。

既存の設備を生かしてハウリングや聞こえにくさを防ぐことも十分に可能なこと。ただし、既存の音響機材を使用する際には注意が必要です。古い音響機材の中には、電波法によって現在使用できない機材もあるそうです。

音響の必要性

そのためにもそれぞれの寺院でぜひ音響測定・調整を行ってみてくださいとお勧めされました。

それによって既存の音響機材であってもお勤めの声・法話の声が聞き取りやすくなりますし、音質もよくなるそうです。

また、音響設備が充実することによって法要や研修会の内容も充実するかもしれません。
“本堂のどこにいても
美しく快適に響く音”

寺院を開かれた空間にしている一つの手段かもしれません。

今回取材にご協力いただきました北辰映電株式会社さま、ありがとうございました。



▲こんな音響設備を整えた寺院も！

拘ればCDなどの音源を出力するプレーヤーの選定、パワーアンプ、ミキサー、ワイヤレスマイク機器など奥が深い。



比婆組妙延寺
の
尾野義宗住職

『歎異抄の真意と原形』

出版の願い

昨年、比婆組妙延寺の尾野義宗住職が著述した『歎異抄の真意と原形』（A5判・494頁）が永田文昌堂から発行された。そこで、出版にいたるまでの願いなど寄せてもらった。

（教区報専門委）

視点

拙著執筆の動機は、現行『歎異抄』原本の写本を残された蓮如上人への禁書者という非難、本願寺創立者の覚如上人への不審視、親鸞聖人出家動機を軽視する歴史書の増加、親鸞聖人の敬称省略・呼び捨ての真宗僧侶の氾濫、寺・教団形成否定論による僧侶や住職の立場の弱体化、教団の分裂などの諸動向に危惧を感じたからです。本当にこれでよいのでしょうか。

（2）『歎異抄』の旧来解釈

これらの根底に『歎異抄』解釈があると思われます。現在、それは殆んど大谷派の了祥師視点の延長線上にあるようです。つまり、著者唯円は 関東一門弟、形態は 親鸞聖人の本音の直聞直記の信仰書、対象は 不特定多数の庶民、親鸞聖人像は

第2条「よきひとの仰せを

かぶりて信ずる」と第6条「親鸞は弟子一人ももたず」とで弟子の立場堅持・師匠の立場辞退の同朋重視の浄土真宗立教開宗の偉大な念仏者となります。

（1）動機

拙著執筆の動機は、現行『歎異抄』原本の写本を残された蓮如上人への禁書者という非難、本願寺創立者の覚如上人への不審視、親鸞聖人出家動機を軽視する歴史書の増加、親鸞聖人の敬称省略・呼び捨ての真宗僧侶の氾濫、寺・教団形成否定論による僧侶や住職の立場の弱体化、教団の分裂などの諸動向に危惧を感じたからです。本当にこれでよいのでしょうか。

そして、『教行信証』の

「主上臣下法に背き」重視と相まって、『歎異抄』を教団形成否定の「横糸用」の聖教と評価し、更に、蓮如上人奥書を禁書指示と決めつけ、上述の諸動向へと運動していると思われます。だが：

（3）蓮如上人の御指南による

新視点と『歎異抄』の発見
「問の中に答あり。問を見よ」を

受け、『歎異抄』を再凝視すると、殆どの注釈書が見逃している表紙の蓮如上人御指南がありました。奥書のそれと並べてみましょう。

表紙

「歎異抄一通 蓮如之」

奥書

「右斯聖教者為当流大事聖教也

於無宿善機無左右不可許之者也 釈蓮如・花押」

すると、個人用「蓮如之」の私信「一通」を、「当流大事の聖教と為」して伝授するという本願寺宗主の実行宣言「釈蓮如花押」が見えてきました。全く新しい視点です。

つまり、蓮如上人は御指南全体から見ると、『歎異抄』禁書者でなく、逆に「私信」を書写して原本を残し、更に聖教化し流布させた最大の功勞者と分かるのです。

そして、覚如上人の伝記『慕帰絵』第3巻第3段の唯円との対談の「日来不審の法文にをいて

善悪二業を決す」

の「法文」ほうのふみ」が「私信」の『歎異抄』と見えてきました。

「日来」とは、前年の如信の覚如上人への相伝を示し、『歎異抄』発見と、関係者が分つてきました。

(4) 「唯円大徳」は
「小野宮禅念の子・源 輔時」

又、多くの注釈書で案外不詳なのが著者「唯円」その人です。

しかし、「唯円」が兩派の信頼厚い歴史書・先啓了雅『大谷遺跡録』や寿海『大谷嫡流実記』に「唯善別腹舎兄」、「唯善の異母の兄」とあります。「唯善」は、聖人の季(すえ)娘・覚信尼と再婚相手・小野宮禅念(おのみやぜんねん)こと源具親との子です。

すると、「唯円」は大谷廟堂の土地提供者・禅念の先妻との次男で、覚如上人の義理の叔父・源輔時で、一門弟ではないのです。

(5) 『歎異抄』の性格

『慕歸絵』から、『歎異抄』は善鸞(ぜんらん)符術(ふじゆつ)(造悪無碍対応の病氣直し)に対抗して、義理の甥・覚如上人へ教団委託した親族間の「私信」・「善知識用の教則本」であり、第6条も「弟子一人ももたず」

「師の恩をも知るべき」の親鸞聖人師匠の自戒と、弟子の自覚喚起とで「僧侶の師資相承に

よる念仏教団の骨格形成の論拠」が教示された「僧侶の師と弟子」の対話であり、『歎異抄』は教団形成の「縦糸用」聖教だと分かり、旧来解釈と全く相違します。

(6) 『歎異抄』の受託者・覚如上人

① かくして、『歎異抄』受託の覚如上人は21才から関東に聖人事跡を訪ね『報恩講私記』『御伝鈔』を著述し、隠忍自重の末62才に『口伝鈔』、翌年、大谷廟堂に天皇の勅願寺としての「本願寺」寺号を獲得します。



② その『御伝鈔』の親鸞聖人像

は『歎異抄』と『恵信尼消息』を受けています。『歎異抄』は親族間の私信故に敬称略ですが、大乘菩薩道の師匠としての引用は、大勢至菩薩の化身「法然聖人」と同じ「聖人」の呼称を使用して「浄土より来生」を示唆しています。又、『恵信尼消息』は親鸞聖人を観音菩薩の化身と感得したとあり、上人は両書受託の基盤の上に「大慈阿弥陀仏の来生」たる「宗教的真実」の聖人像を記述したのです。これ又、旧来聖人像と相違します。

③ 更に、『口伝鈔』文形は『歎異抄』の第10条以下と酷似です。

それで上人が参考にした『歎異抄』原形の「法文」は第10条から始まり、第9条迄は「証文ども」、漢文部分は仲介者・如信の聞き書きと分かります。又、上人は課題の「善悪二業」を「信心正因、称名報恩」と解決して、教団樹立の教学を確立されたのです。

④ 『教行信証』「主上臣下法に背

き」と勅願寺「本願寺」寺号獲得とは大きな断絶があります。覚如上人は19才の『歎異抄』受託時に「承元の法難」の詳細を聞き、26才の『御伝鈔』下巻第一段に「法難」惹起の当事者を特定・限定して詳述し、同時に、「禿の字」での聖人の奏聞に対して皇帝・佐渡院の「陛下の歡感」や「侍臣の褒美」があったと記し、是々非々の立場を公にされています。それを勅願獲得の橋頭堡にし、天皇家と藤原氏の長い伝統下、嫡男・善鸞を超えた「本願寺」教団を確立なされたでしょう。(前著述)

(7) 出版の願い

蓮如上人御指南を頂いてこそ『歎異抄』の真意が分り、多くの暗雲を払拭でき、そのことによつて覚如・蓮如両上人の顕彰と、浄土真宗と「如来聖人」のお徳を全世界に伝播させたい、それが拙著出版の願いです。



寺院活性への道
微妙の華
 Mimyou no Hana

仏教讃歌に魅せられて

沼隈西組 常泉寺仏婦会長 佐藤泰子

「コール泉(せん)」は、誕生して6年目のよちよち歩きのコーラスです。親鸞聖人750回大遠忌法要、住職継職奉告・本堂・庫裡新築落成という大行事を終えた常泉寺(中江恵之住職)に、多くの方に集まっていたただこうと、コーラス誕生の運びとなりました。門信徒会長がピアノを寄進して

くださり、広い本堂で仏教讃歌を歌わせてもらうと、阿弥陀さまがすぐそばで聞いてくださっているようで、ありがたい気持ちになります。

詩も響きもすばらしく歌うたびに感動が深まります。ご指導くださるお二人の先生のおかげで、しだいに参加者も増えてきました。

総会、永代経法要、平和の鐘をつく集い(キッズサンガ)、報恩講法要などで発表させてもらっています。去年は本山での『秋の御堂演奏会』に初めて参加しました(23名)。

「600人以上の方々を一つにし何曲も歌わせていただいた感動は忘れられません」「本山にお詣りでき、全国からの皆さまと歌へありがたい思いでいっぱいです。北海道の方に来年も会いましょうと誘われました」



常泉寺仏教婦人会 「コール泉」 2013.10.18

などの感想をいただきました。

「コール泉」の練習は毎月第三金曜日の午後ですが、行事を控えている時は第一金曜日も練習をします。練習後には坊主さまが用意してくださるお茶とお菓子をいただきながらくつろぐのも楽しいひとときです。役員からのお願いや伝えることと相談することなどの場にもなり親睦も深まりつつあります。

今後も、仏教讃歌を歌う会に出あえた喜びを大切に、このご縁をより深め広げていきたいと願っております。 合掌

教区月報

1月

- 8日 教務所仕事始め
- 9日 寺婦役員会
- 11日 教堂常例法座
- 20日 法務法務専門委員会
- 21日 保護司会設立準備会
- //日 門信徒部会
- //日 門徒推進員世話人会
- 23日 伝道広報部会
- //日 教区報専門委員会
- 27日 得度のための講習会
- 29日 仏婦役員会
- 31日 ビハーラ研修協議会

2月

- 5日 同朋三者懇(尾道)
- 8日 仏壮役員会
- 11日 教堂常例法座
- 12日 勤式練習会
- //日 寺婦研修旅行(13日)
- 13日 矯正教化管区支部研修会(14日 岡山刑務所)
- 17日 総代研修会(北 三次)
- 18日 総代研修会(南 深津)
- 19日 広報伝道部会
- //日 第5回真宗講座
- //日 法務法務専門委員会

News & 活動情報

得度のための講習

【勤式】 1月27日、備後教堂にて得度習礼の事前講習会が開催された。今年は2名の参加。衣体の畳み方、五条袈裟の結び方、荘厳作法といった内容などを中心に指導を行った。

ビハークラ備後研修協議会

【ビハークラ】 1月31日、備後教堂においてビハークラ備後研修協議会が開催された。出席者は23名。季平博昭師を講師に招き、経験をつまえた講義を聞き、昼からは協議会を開いた。

矯正教化管区支部研修会

【矯正教化】 2月13日～14日、矯正教化連盟の広島管区支部教誨師研修会を備後教区の引き受けて開催された。会場は岡山刑務所にて行われ、施設見学を通して、刑事施



設における改善更生に向けた取り組みなど学ばせてもらった。

門徒総代が研修会

【門徒総代】 教区の門徒総代研修会が2月17日に三次市十日市コミュニティセンター(北部)で、18日に深津組法真寺(南部)を会場に開催された。講師は松月博宣師(福岡教区・志摩組海徳寺)で、北部98名、南部105名の参加。



▲三次市のコミュニティセンター(北部)

◀福山市の法真寺(南部)

前日(北部)の参加者が好評につき、翌日(南部)にも参加される方も!



布教団が実践運動

【布教団】 2月27日、部門別実践運動研修会・臨時総会が開催された。午前中は中央委員の小島照行師(御調西組法泉寺)より教区としての実践運動について、午後からは元RCCアナウンサーの山野秀子さんを招き、「日本の美しい言葉」の講義を伺った。



▶布教団研修

ほほえみ講座



ほほえみ講座

【仏婦】 3月2日、備後教堂にて教区仏教婦人会連盟の若婦人専門委員会「ほほえみ講座」が開催された。

布教使の弘山光称師より仏事や雅楽の話为例に法話され、午後の部ではポーモーリーズの皆さまより仏教讃歌の指導が行われた。

3月		4月	
21日	教区事業推進委員会	31日	門徒推進員世話人会
24日	教区常備会	28日	備龍会ソフトボール大会
25日	備龍会仏教教養講座	27日	仏婦役員会
26日	同朋社会部	26日	ビハークラ役員会
27日	布教団部門別実践運動 研修会・臨時総会	25日	組長会
2日	ほほえみ講座	18日	参与会聞法会
3日	連区教化連絡協議会 (～4日 四州)	17日	同朋三者懇談委員会
4日	勤式練習会	14日	定期教区会
6日	寺婦役員会	13日	同朋講座
7日	連研履修者のつどい	11日	教堂常例法座
10日	第2回実践委員会・事業推進委員会・総会	10日	同朋講座
2日	ほほえみ講座	7日	第2回実践委員会・事業推進委員会・総会
3日	連区教化連絡協議会	6日	寺婦役員会
4日	勤式練習会	4日	勤式練習会
6日	寺婦役員会	3日	連区教化連絡協議会
7日	連研履修者のつどい	2日	ほほえみ講座
10日	第2回実践委員会・事業推進委員会・総会	3日	連区教化連絡協議会
11日	教堂常例法座	2日	ほほえみ講座
13日	同朋講座	3日	連区教化連絡協議会
14日	定期教区会	4日	勤式練習会
17日	同朋三者懇談委員会	6日	寺婦役員会
18日	参与会聞法会	7日	連研履修者のつどい
25日	組長会	10日	第2回実践委員会・事業推進委員会・総会
26日	ビハークラ役員会	11日	教堂常例法座
27日	仏婦役員会	13日	同朋講座
28日	備龍会ソフトボール大会	14日	定期教区会
31日	門徒推進員世話人会	17日	同朋三者懇談委員会

& 活動情報

News

教区会で予算審議

【教区会】 3月14日、備後

教室にて定期教区会が開催された。

平成26年度の予算審議が行われ、全て承認された。その他、教区賦課基準規則の一部を変更する区令についても承認を受けた。

参与会・聞法会

【参与会】 3月18日、備後教室 参与会総会・聞法会が開催された。

聞法会では講師に、龍谷大学の 玉木興慈師（大阪教区浄興寺）を招き、「正信偈に学ぶ」と題して、話された。

実践運動研修会

【実践運動】 3月10日、第2回 実践委員会・事業推進委員会・総会が開催された。

各組で実施された実践運動僧侶研修会の報告並びに比婆組における実践運動を西楽寺・定光大燈住職より報告があり、宗門のテーマに沿った各事業の展開について組の取り組みを話された。

連研履修者のつどい

【連研】 3月7日、備後教室にて教区の連研履修者研修が開催された。今年には組連研修了者に加え、現在組連研受講中の方も対象として、念仏のご縁と履修者同士の絆を育てていただいた。講師には、連研中央講師の石崎博叙師（大阪教区大円寺）を招いて、体験発表の時間や講義をいただいた。

同朋講座

【同朋部会】 3月13日、同朋講座が備後教室にて開催された。

テーマは「格差・貧困問題から学ぶ」で、作家であり社会活動家の雨宮処凛さんを講師に迎えて、午前・午後の研修で話を伺った。



寺族若婦人研修会

【寺婦】 4月17日、寺族婦人会 連盟若婦人研修会を神石組教西寺（馬屋原晃准住職）にて開催した。

講師は二階堂和美師（歌手作詞作曲家・安芸教区佐伯西組大龍寺衆徒）。自身の

遍歴や音楽活動での体験を語られ、歌唱を交えて講演いただいた。



インフォメーション 備後教区・今後の予定

各法人の県庁への書類提出期限は7月31日です。

広島県の寺院（電話 082-228-2111）

〒730-0011 広島市中区基町 10-52
広島県庁内 環境県民局 学事課

岡山県の寺院（電話 086-224-2111）

〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6
岡山県庁内 総務部 総務学事課

未提出の場合、10万円以下の過料処罰金が発生します。お忘れなきようご留意下さい。

教堂常例法座出講者

（敬称略）

6月「慈悲充滿」

部 晃尊 （三次組円勝寺）

7月「私の歩む道」

栗原一乘（世羅組浄楽寺）

8月「照らされ抱かれ育てられ」

伊川大慶（三次組西覚寺）



11日	教堂常例法座
13日	仏教壮年会総会研修会
15日	仏教婦人会総会研修会
16日	保護司会
17日	寺族婦人会若婦人研修会
22日	少年連盟連絡協議会 （23日 安芸）
24日	実践運動、事業推進 合同総会研修会
25日	少年連盟役員会
30日	保育連盟全体会

インフォメーション 備後教区・今後の予定

今後の予定

- 5月
 - 11日 教堂常例法座
 - 11日～12日 勤式研修 (八尾市顕証寺)
 - 15日 僧侶研修会(御調東組 照源寺)
 - 26～27日 中四国野球大会(高松)
 - 29～30日 全国布教大会(本山)
- 6月
 - 2日 同朋三者懇話会(備後)
 - 4日 教区真宗講座(第6回)
 - 5～6日 法統継承式(本山)
 - 11日 教堂常例法座
 - 11～13日 備龍会研修旅行
 - 16～17日 連区青年布教使研修会 (四州)
 - 18日 組長会
 - 19～20日 布教団夏季布教大会
 - 23～24日 勸学寮 真宗講座
 - 24日 備龍会総会
 - 26日 仏婦実践運動研修会
 - 27日 門徒世話人会
 - 27日 連研新教材普及学習会

インフォメーション

第6回真宗講座(選択本願)

とき 6月4日(水)
 ところ 本願寺備後教堂
 講師 安方哲爾 先生

布教団夏期布教大会

とき 6月20日(金) 朝席 昼席
 ところ 本願寺備後教堂
 本講師 小林顕英 師
 伊川大慶(三次組西覚寺)栗原一乗(世羅組浄楽寺)平山智正(深津組光円寺)深水正道(三次組専正寺)

布教団特別布教大会

とき 7月12日(土) 昼席
 ところ 備中里組 教善寺
 講師 川上順之(神石組法泉寺)苅屋光影(深津組光行寺)長谷川憲章(三谿善徳寺)平山義文(深津組光榮寺)

保育新任補任式研修会

とき 7月5日(土)
 ところ 本願寺備後教堂
 講師

連研のための研究会

とき 7月8日(火)
 ところ 本願寺備後教堂
 講師 連研中央講師

全国真宗青年の集い 北海道大会

とき 7月26日(土)～27日(日)
 ところ 本願寺札幌別院
 講師 大平光代さん

- | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 三谿組 正法寺 | 三谿組 正満寺 | 御調東組 照願寺 | 三谿組 福善寺 | 三谿組 法専寺 | 三谿組 慶照寺 | 三谿組 善正寺 | 三谿組 勝願寺 | 三谿組 高連寺 | 三谿組 福善坊 | 三谿組 光林寺 | 三谿組 湯木 徹(徹海) | 三谿組 森安百合枝(智聖) |
| (平成26年3月15日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) |

得度許可

おめでとうございます

〔敬称略〕

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 三谿組 明覺寺 | 三谿組 正法寺 | 三谿組 正満寺 | 御調東組 照願寺 | 三谿組 福善寺 | 三谿組 法専寺 | 三谿組 慶照寺 | 三谿組 善正寺 | 三谿組 勝願寺 | 三谿組 高連寺 | 三谿組 福善坊 | 三谿組 光林寺 | 三谿組 湯木 徹(徹海) | 三谿組 森安百合枝(智聖) |
| (平成26年3月15日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) | (平成26年2月27日付) |

香典返礼

ありがとうございます

より香典返礼をおおくりしました。

敬申

お悔やみ申し上げます

〔敬称略〕

- | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 備中里組 慈恩寺 | 備中里組 慶満寺 | 備中里組 松井 恵(恵美) | 備中里組 大智(大智) | 三谿組 泉龍寺 | 三谿組 坂田 尚大(大智) | 三谿組 専教寺 | 三谿組 鎌倉 義雄(義雄) | 御調東組 正典坊 | 御調東組 近安 徹(徹信) | 御調西組 浄念寺 | 御調西組 林 聡子(聡明) |
| (平成25年12月12日付) | (平成25年12月12日付) | (平成25年12月12日付) | (平成25年12月12日付) | (平成26年3月28日付) | (平成26年3月28日付) | (平成26年3月28日付) | (平成26年3月28日付) | (平成26年3月28日付) | (平成26年3月28日付) | (平成26年3月28日付) | (平成26年3月28日付) |

教師授与

おめでとうございます

〔敬称略〕

お寺の子どもの集い

3月26日(水)、お寺の子どもの集いを、沼隈西組万福寺(河村祐昭住職)において「うどんづくり・お抹茶体験」と称して開催。参加者は子ども24名、保護者・スタッフ20名。うどんの生地づくりから河村祐昭住職に指導いただき、みんなが実食。お昼からはゲームを交えながら茶室で本格的なお抹茶体験。生憎の雨天であったが子どもたちの笑い声が絶えなかった。お寺宛には「キライだったうどんが好きになった」とのお礼状もあつたそうである。



人事

今般、派遣社員の藤井リエさんが辞められ、森垂矢美さんが着任されました。

新派遣社員 森垂矢美さん



3月17日より教務所でお世話になっております。森と申します。不慣れなこともあり、ご迷惑をおかけする存じますが、お役に立てるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

今般、4月1日付で職員が2人就任しました。

米沢友樹(世羅組西照寺)



この度4月1日付で札幌別院より異動してまいりました米沢友樹

(世羅組西照寺衆徒)と申します。遠く北の大地より地元の備後教区へ戻ってまいりました。あらためて広島弁の心地よさを感じる



▽キリスト教立の学校をミッション

毎日です。趣味はスポーツ(とくにバスケット)です。初めての教務所業務でまだまだ不慣れな点もありますが、気持ちも新たに精一杯頑張りたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

高橋祐大

(山口教区大津西組常正寺)



このたび4月1日付で備後教務所に配属となりました高橋祐大

橋祐大(29歳)と申します。所属寺は山口教区大津西組常正寺です。新職ですので未だ経験は浅く、ご迷惑おかけするかと思いますが、一日も早く皆様のお役に立てるよう、努力してゆきたいと思っています。宜しくお願いいたします。

「教区報」の編集にあたり、皆様のご意見やご感想、情報の提供をお待ちしています。教区報専門委員会まで、ご一報ください。

TEL(084)924-5759
fax(084)931-9323

スクールといえます。私たちは使命や任務の意味で「ミッション」という言葉を使いますが、もともとは伝道の意味しているそうです。敬虔なキリスト教徒にとって神の言葉を世界中に送り届けることは大切な使命という考え方でしよう▽それに対して仏教は、三蔵法師が経典を求めて命がけでインドに向かい、最澄や空海が中国で学ばれたように、仏の教えは待っていても向こうからやってくるのではない(自分)から求めるものであったようです▽ジャーナリストの池上彰さんは、「この事実には他の宗教にはない仏教の一面が表れている。仏教が広く浸透していったのは、よほどの魅力が備わっていたのだろう」と語られています▽今号紹介の甲斐和里子さんもキリスト教へ対抗や仏教者の使命・任務という想いもあつたでしょうが、むしろ足利義山や仏教の魅力語り広められた方であったと感じます。現代も多くの宗教に囲まれ、寺院を取り巻く状況は厳しいものですが、先人方と同様、自信教人信・大悲伝普化に浄土真宗の魅力を伝える教区報でありたいものです。(K.F)